

われは人間なり

広島県立広島中央特別支援学校

中学部第2学年 坂口 璃桜

われは人間なり

坂口 璃桜

われは人間なり

小一から小六まで

クロセトクシにいた

とちゅうから

目がみえなくなった

こわかった

四月から中一B

四月から中おうとくし

家からとおい きしゆくしやでせいかつ

さみしい

ことしは きよねんより

さみしい

だけど のりこえるなり

<指導者の言葉>

国語の『詩に親しもう』で学習した内容を踏まえて、自身に置き換え、「われは〇〇なり」の形で作成した作品です。

中学部から本校に入学した生徒であり、第二学年に進級したての4月に行った単元です。環境の変化に戸惑いながらも、その時の気持ちを踏まえて詩に表しています。

初めは、自身で作成したものが作文のように長い文章や物語のようになっていたため、詩のリズムを意識しながら、指導者と一緒に推敲を進めました。また、「そのときどんな気持ちだった。」「なんでそう思ったの。」と聞き取りをしました。

作成する際には以下の3点に留意して文章を考えるように伝えました。

- ①短い文にすること。
- ②自分の気持ちを踏まえること。
- ③表記によって印象が変わること。

この作品の最後には不安な気持ちを受け入れつつ、前に向かって行く気持ちを「だけどのりこえるなり」で表し、締めくくっています。

作品を作り終えたときに、題名を考えました。前に向かって行く気持ちとともに、自己理解が深まったように感じる作品です。